

小学校の学習は、将来社会人として自立するための基礎となるものです。特に「聞くこと」「話すこと」「書くこと」「計算すること」は、欠かすことのできない「生きるための力」です。
学校では、少人数学習など、「個に応じた指導」の取り組みを通して基礎学力を高めるため努力していますが、家庭と協力することによりさらにその力が何倍にも高められます。
つまり、家庭学習の習慣化が子どもの「生きる力」を高めるのです。
この手引きをよく目にする場所に貼っておき、家庭学習の習慣化を進めましょう。

1. 家庭での学習を習慣化しよう

※学習時間のめやす

1,2年生 20分 3年生 30分 4年生 40分
5年生 50分 6年生 60分

※学力アップは規則正しい生活から

- 早寝・早起き
- 朝食は必ずとる
- 朝の排便
- 自分で時間割や学習用具をそろえる

※学習の3つのポイント

- ・テレビを見ながらしない
- ・よい姿勢でする
- ・机の上をきれいにしておく

学力向上は、 家庭学習の習慣化から



2. 各学年で身につけたい力

習慣づけの1年生

- ① ひらがな・かたかなの清音が読めて書ける。
- ② 助詞（て・に・お・は）を適切に使って文章が書ける。
- ③ たし算・ひき算ができる。
- ④ 80字の担当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ⑤ 鉛筆を正しく持って字が書ける。

逃げない2年生

- ① 160字の担当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ② 順序よくお話をすることができる。
- ③ 九九がすらすら言える。
- ④ 定規を使って筆算をきれいに書きながら計算できる。
- ⑤ 決められた長さの直線を正しく引ける。

分岐点を乗り越える3年生

- ① 200字の担当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ② 短い詩が暗唱できる。
- ③ 簡単なことわざを知っている。
- ④ 主語と述語の意味がわかる。
- ⑤ わり算ができる。
- ⑥ はかりを使って重さがよめる。

「9歳の壁」を破る4年生

- ① 200字の担当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ② ローマ字を適切に読み書きできる。
- ③ 文と文のつながりを考えながら、指示語や接続語使う。
- ④ 国語辞典・漢和辞典を正しく使える。
- ⑤ わり算の筆算ができる。
- ⑥ 倍を使った文章題が正しく解ける。
- ⑦ コンパスを使って簡単な図形がかける。
- ⑧ 地図を使って見知らぬ場所や地名が調べられる。

天と地の差がつく5年生

- ① 185字の担当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ② 今まで習った漢字を使った熟語の8割が書ける。
- ③ 少数のかけ算・わり算ができる。
- ④ 分母が同じ分数のたし算・ひき算ができる。
- ⑤ 割合・百分率を使った問題が解ける。
- ⑥ パソコンでローマ字入力ができる。
- ⑦ 47都道府県の位置がわかり、正しく書ける。

中学生活に希望が持てる6年生

- ① 小学校で習得すべき漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。（6年生は181字）
- ② 小学校で習う漢字を使った熟語の8割を正しく書ける。
- ③ 歴史に残る古文のいくつかにふれ、暗唱できる。
- ④ 分数のたし・ひき・かけ・わり算ができる。
- ⑤ 歴史上の事件や人物についてほしい説明できる。
- ⑥ 重要な年号を30程度覚える。
- ⑦ 日本国憲法の前文が暗唱できる。
- ⑧ 三権分立など社会用語のほしい説明ができる。
- ⑨ 世界の主な国々の位置を正しく示せる。
- ⑩ 理科の実験道具の正しい扱い方を知っている。
- ⑪ パソコンで速くローマ字入力ができる。

3. 生活の中で、見えない学力をつけよう

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------|
| ア 読書は「見えない学力」を高めます。 | カ 小学生新聞など、新聞を読もう。 |
| イ 国語辞典・漢和辞典その他の辞典や図鑑類を身近に置いて調べよう。 | キ 百人一首など詩歌の暗唱をしよう。 |
| ウ 日本地図・世界地図を身近に置いて調べよう。 | ク 将棋や囲碁など頭を使うゲームをしよう。 |
| エ 地球儀をテレビの隣に置いて調べよう。 | ケ 自然や生き物とふれあい、くわしく観察しよう。 |
| オ ニュース番組を親子で見ながら話そう。 | コ 家の仕事をめんどくさがらないでやろう。 |